

生物多様性と浄化作用「干潟」

○干潟とは

干潟とは、干潮時に沿岸域に現われる、砂や泥がたまった場所です。

干潟は、陸から流れ込む有機物および沖合水中の植物プランクトンをそこに棲む二枚貝（アサリなど）や底生生物（ゴカイなど）などが分解するため、高い水質浄化機能があります。底生生物を餌とする魚類や水鳥などが数多く集まるため、藻場と同じように、多様な生き物が生育したり、餌を食べる場となっています。

埋立によりその多くが消失してしまいましたが、干潟の様々な機能が知られるようになり、残された干潟を保護する機運が高まっています。

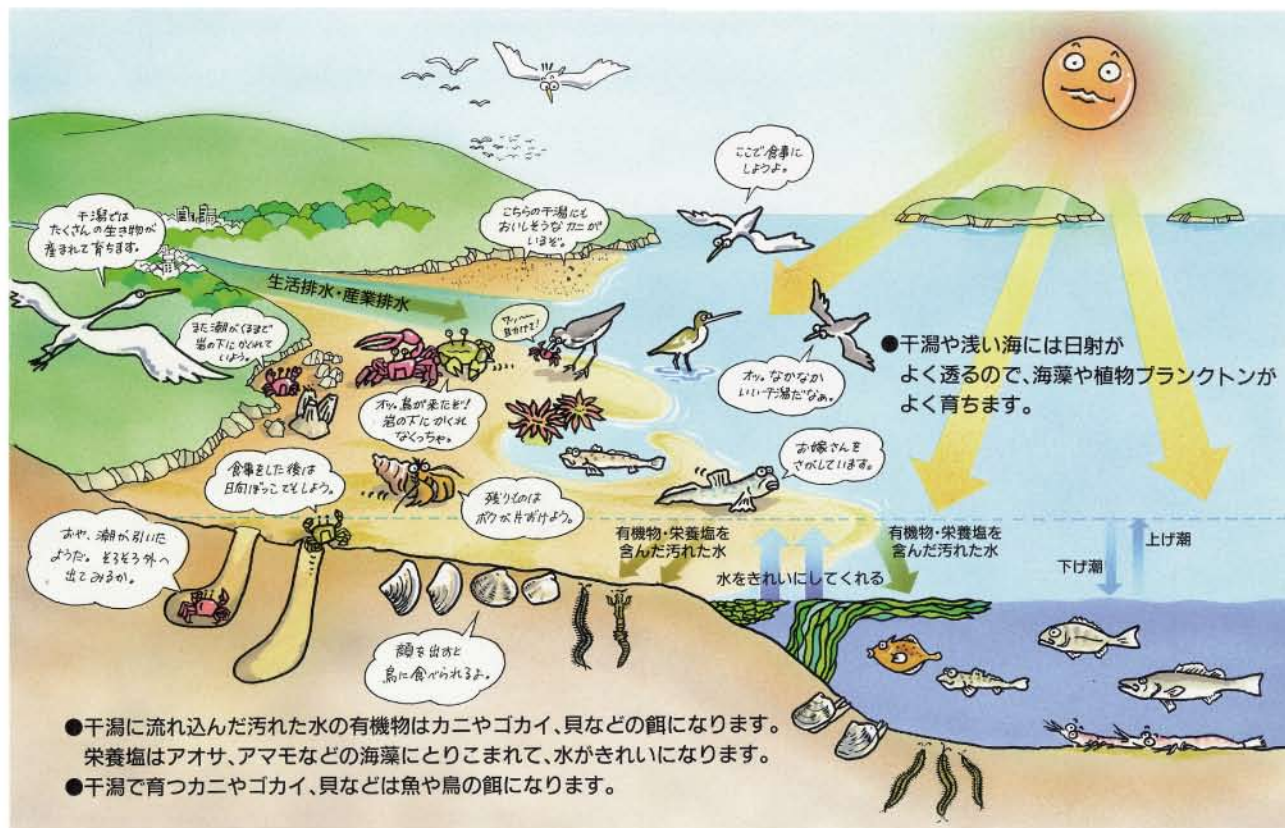


▲藤前干潟（ラムサール条約登録湿地）
写真提供：NPO法人 藤前干潟を守る会



出典：環境省：日本の干潟、藻場、サンゴ礁の現状
第1巻（干潟）1995データを基に作成
提供：伊勢湾環境データベース

○干潟の役割



○干潟に棲む生き物



▲アサリ



▲ドロフジツボ



▲ウミニナ・ヘナタリガイ



▲マテガイ



▲ヒメハゼ



▲ゴカイの仲間



▲イソガニ



▲スナモグリ



▲ボラの稚魚



▲オオソリハシシギ



▲ミヤコドリ



▲アオサギ